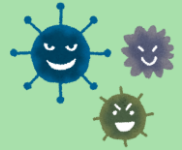




歯周病が認知症の進行に関与？！

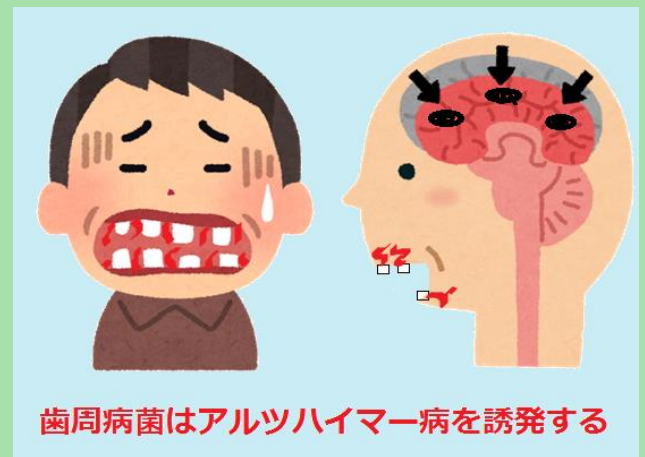


歯周病菌の親玉、**ポルフィロモナス・ジンジバリス (Pg菌)**。

この恐るべき菌は歯周病を悪化させるだけでなく、**脳に入り込んで悪さをすると**考えられてきているのです。

「歯周病はたかがお口の病気」と甘く見てはいけません。

プラーク内のPg菌が、炎症を起こした歯茎から血管に入り、血流にのり体内をめぐったPg菌は、脳に入り込みたんぱく質分解酵素（ジンジパイン）を分泌。
脳の神経細胞を変質させてアルツハイマー型認知症を悪化させる可能性が指摘されています。



認知症は複合的な要因で起こります。

これまでもお口からの要因としては「歯を失って噛めなくなると脳に刺激が行かず、認知症になる」といわれていました。

しかし歯周病菌そのものが認知機能を奪っている可能性があるというのは誰もが想像すらしなかった事でした。

加齢にともない歯周組織や免疫が弱まると、歯周病になりやすくなります。だからこそ元気なうちから歯周病を予防すること、もしなってしまったとしたら、歯医者さんの力を借りて悪化させないように管理していくことが大切です。

お口の健康は自分の力だけでは維持しにくいものです。

歯医者さんというプロフェッショナルの力を借りて、「健康で長生き」を実現させましょう！

